

リオ・クオクマン(指揮) Lio Kuokman, conductor

「フィラデルフィア・インクワイアラー」紙から「驚くべき指揮の才能」を称えられたリオ・クオクマンは、指揮者、ピアニスト、室内楽奏者として引く手あまたの存在である。2015/16シーズンまで、フィラデルフィア管弦楽団でヤニック・ネゼーセガンの副指揮を任せられ、現在は同団のアジア常任指揮者・芸術アドバイザーを務めている。

フィラデルフィア管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、オタワ・ナショナル・アーツ・センター管弦楽団、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団、シンフォニア・ヴァルソヴィア、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団、デンマーク国立交響楽団、香港フィルハーモニー管弦楽団、台北フィルハーモニー管弦楽団などを指揮。最近では、NHK交響楽団、東京都交響楽団、デトロイト交響楽団、トレド交響楽団にデビューしている。国際音楽祭からも定期的に招かれており、ラ・フォル・ジュルネ（フランス・日本）、ブラヴォー！ヴェイル・バレ音楽祭、北京国際音楽祭、カプリコ現代音楽祭、韓国のグレートマウンテン音楽祭、香港アーツ・フェスティバル、マカオ国際音楽祭などに参加。今後の指揮活動のハイライトとして、モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団との初共演、京都市交響楽団の定期公演へのデビュー、スポレート音楽祭でのオペラ指揮などが挙げられる。現代音楽にも関心を寄せるクオクマンは、香港ニュー・ミュージック・アンサンブルの首席指揮者に任命された。

オペラでは、《トゥーランドット》、《ドン・ジョヴァンニ》、《フィガロの結婚》、《カルメン》、《愛の妙薬》、《カヴァレリア・ルスティカーナ》、《道化師》、《ランメルモールのルチア》、《リゴレット》をはじめ、多数のプロダクションを指揮。2010年には、ドニゼッティ作曲《連隊の娘》の香港初演を行い、さらにヒンヤン・チャン作曲の室内オペラ《ハート・オブ・コーラル》と《Datong》の初演も振っている。2016年3月にはワレリー・ゲルギエフからの招きでマリインスキー劇場へのデビューを飾り（リムスキー=コルサコフ《プスコフの娘》）、その成功から2017/18年シーズンの再招聘が決まった。

イタリアで行われた第6回マウロ・パオロ・モノポリー国際ピアノ・コンクールの優勝者であるクオクマンは、ピアニストとしても活躍しており、これまでにカメラータ・ザルツブルク、フォートワース交響楽団など多数のオーケストラとソリストとして共演している。

香港演芸学院を首席で卒業。その後、ジュリアード音楽院、カーティス音楽院、ニューイングランド音楽院で学んだ。これまで、オットー=ヴェルナー・ミュラー、ヒュー・ウルフらに師事。サー・サイモン・ラトル、マイケル・ティルソン・トーマス、ジェームズ・レヴァイン、クリストフ・エッシェンバッハ、アラン・ギルバートら著名な指揮者のマスタークラスでも研鑽を積んだ。若手指揮者に贈られるセオドア・プレッサー財団賞やマリリン・ホーン財団賞を受賞。芸術文化の発展への貢献が評価され、香港政府の民政事務局長から表彰状を、マカウ政府から文化勳章を授与された。マカウ室内楽協会の創設メンバーであり、現在は同協会の代表を務めている。

“…衝撃的なまでに才気あふれる指揮者”
—フィラデルフィア・インクワイアラー紙

“…コンサートのオープニングを飾り、オーケストラを確実かつ優雅に導いた”
—シャトウカン・デイリー

“…美しいコントロールのセンス”
—スター・テレグラム